

Dietary patterns and progression of impaired kidney function in Japanese adults: a longitudinal analysis for the Fukushima Health Management Survey, 2011–2015

日本人成人の食事パターンと腎機能障害の進行：  
福島県民健康調査の縦断的分析、2011–2015年

馬恩博

福島県立医科大学健康増進センター  
福島県立医科大学医学部疫学講座

著者

馬恩博<sup>1,3\*</sup>、大平哲也<sup>1,3</sup>、安村誠司<sup>3,4</sup>、中野裕紀<sup>2,3</sup>、江口依里<sup>2,3</sup>、宮崎真<sup>1,3</sup>、細矢光亮<sup>1,3,5</sup>、坂井晃<sup>3,6</sup>、高橋敦史<sup>3,7</sup>、大平弘正<sup>7</sup>、風間順一郎<sup>3,8</sup>、島袋充生<sup>3,9</sup>、矢部博興<sup>3,10</sup>、前田正治<sup>3,11</sup>、大戸斉<sup>3</sup>、神谷研二<sup>3,12</sup>

1 福島県立医科大学健康増進センター、2 福島県立医科大学医学部疫学講座、3 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、4 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、5 福島県立医科大学医学部小児科学講座、6 福島県立医科大学医学部放射線生命科学講座、7 福島県立医科大学医学部消化器内科学講座、8 福島県立医科大学医学部腎臓高血圧内科学講座、9 福島県立医科大学医学部糖尿病内分泌代謝内科学講座、10 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、11 福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座、12 広島大学原爆放射線医科学研究所

要約

先行研究では、野菜類を多く摂る食事パターンの人ほど心血管代謝リスクが低下していることを明らかにしましたが、2011年3月の東日本大震災後の福島県では過体重・肥満、高血圧、脂質異常症の発症者が増加しており、慢性腎臓病(CKD)発症のリスクの増加が示唆されています。しかしながら、日本国内の一般集団における食事パターンとCKD [推定糸球体濾過率(eGFR) <60mL/min/1.73m<sup>2</sup>または蛋白尿(試験紙法≥1+)] 発症リスクとの関連についての調査はこれまで行われていませんでした。

そこで、本研究では2011年度の福島県民健康調査(FHMS)における「こころの健康度・生活習慣に関する調査」の食品摂取頻度質問票(FFQ)への回答があり、同年度に「健康診査」を受診した40歳から89歳までの人のデータを基に、FHMSの追跡期間(2015年まで)において各食事パターンとCKD発症リスクとの関連について調査しました。

その結果、肉類を多く摂取する食事パターンでは有意な関連は観察されませんでした。野菜類を多く摂取する食事パターンの人では推定糸球体濾過率(eGFR)の低下や蛋白尿などの腎機能障害のリスクが低下する傾向がみられ、ジュース類を多く摂る食事パターンの人では腎機能障害のリスクが高くなることが明らかになりました。

結論として、調査の結果、日常生活における食物摂取が腎機能に影響を与えていると考えられることから、腎機能障害の進行やCKD発症のリスクを軽減させるため、豊富な野菜の継続的な摂取を進めることが必要だと考えられます。

掲載情報

「Nutrients」(2021年)

Ma E, Ohira T, Yasumura S, Nakano H, Eguchi E, Miyazaki M, Hosoya M, Sakai A, Takahashi A, Ohira H, Kazama J, Shimabukuro M, Yabe H, Maeda M, Ohto H, Kamiya K.

Nutrients. 2021 Jan; 13(1):168